

## 2025 年度事業報告

(自 2025 年 1 月 1 日 ～ 至 2026 年 12 月 31 日)

一般社団法人日本医療薬学会

### ■ 2025 年度事業報告の総括

#### 1. 組織体制

山本康次郎会頭は、就任二期目の 4 年目を迎え、これまでの施策の総括を図りながら学会運営を推進した。役員体制および各委員会体制については、前年度からの継続を基本としつつ運営を行った。

第 17 回定時社員総会（2025 年 3 月 22 日開催）の決議を経て、新たに 336 名の代議員が就任した。また、2026-2027 年度役員選任に向け、2025 年 9 月に役員候補者選挙を公示し、同年 11 月に当選者を決定した。続いて推薦役員候補者の選任手続きを進め、2026 年 3 月 20 日開催予定の第 18 回定時社員総会において役員選任決議を行う。

#### 2. 会員数

2025 年 12 月 31 日現在の会員総数は 14,405 名（団体会員を含む）であった。うち正会員数は 14,034 名となり、初めて 14,000 名を超えた。学生会員数は前年度より増加した。一方、正会員の所属別では、病院所属区分では増加したものの、薬局、企業、行政、その他の所属区分では減少した。

#### 3. 年会

第 35 回年会は、2025 年 11 月 22 日から 24 日までの 3 日間にわたり、神戸市（神戸国際展示場ほか）にて開催した。参加者数は 11,279 名（招待者を除く）、うち現地参加者は 5,853 名であった。前回に引き続き、現地参加者が過半数を占め、対面形式による活発な学术交流が行われた。（前回の参加者数は 10,675 名、現地参加者数は 5,623 名であった。）

本年会は、現地開催とオンライン配信を併用するハイブリッド形式での 4 回目の開催となった。オンデマンド配信を含むオンライン参加へのニーズも高く、本開催形式は定着しつつある。

#### 4. フレッシュャーズ・カンファランスおよび医療薬学公開シンポジウム

第 8 回フレッシュャーズ・カンファランスは、2025 年 6 月 21 日・22 日の両日、京都市（京都薬科大学）で開催した。参加者数は 284 名であり、うち学生は 142 名であった。フレッシュャーズにより、97 題の演題発表が行われた。（前回の参加者数は 284 名、演題数 107 題であった。）また、医療薬学公開シンポジウムは、全国各地域において計 4 回開催された。

これらの企画は対面開催を基本とし、学生および若手研究者あるいは各地域において、研究成果発表や知識の習得、議論の機会を設けることにより、広範にわたる研究活動の推進を図ることを目的として実施した。

なお、フレッシュャーズ・カンファランスにおける発表実績については、本学会の各専門薬剤師制度において、年会での発表実績と同様に取り扱うこととした。本取扱いは、2026 年 5 月以

降に受付を開始する各専門薬剤師認定申請より適用する。

## 5. 学会誌「医療薬学」および「Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS)」

「医療薬学」誌の投稿数および掲載数は、前年度比約 20%増加した。

「JPHCS」誌においても、投稿数および掲載数は、前年度比でそれぞれ 40%前後増加した。特に海外からの投稿が増加しており、国際誌としての認知度が向上したと推察される。

また、物価上昇等を背景とする財務状況に鑑み、「医療薬学」誌の冊子体の制作および送付を廃止する方針を決定した。今後の医療薬学誌のあり方として、電子媒体等による代替的提供方法の検討を進めた。

## 6. 専門薬剤師制度

医療薬学専門薬剤師制度においては、旧認定薬剤師制度からの移行時に設けられた過渡的措置が終了し、正規の認定要件による新規申請および更新申請へ移行した。専門薬剤師の更新要件において研修および論文掲載が必須となったことに伴い、更新申請者数は前年度より減少した。

地域薬学ケア専門薬剤師制度では、制度発足後初となる正規認定の申請が行われた。2026 年 4 月より、正規の専門薬剤師および指導薬剤師の認定が開始される。

各専門薬剤師制度の新規認定者数については、薬物療法専門薬剤師は増加した一方、医療薬学専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師（暫定認定）は減少傾向であった。がん・薬物療法の両制度においては、介入症例報告の書き方を習得できるセミナーを開催し、認定申請の支援および合格率の向上に努めた。地域薬学ケア専門薬剤師制度を含め、今後も申請者の掘り起こしや申請支援につながる対応を検討する。

また、会員サービスの一環として、学術実績、研修の内容、クレジット、介入症例・臨床実績等を予め登録しておくことができる「専門薬剤師制度資格申請システム」の一部運用を開始した。現在も本システムの構築を進めており、ユーザビリティの向上にも努める。

## 7. 将来計画

年会の会期（現地開催の日数）について、会員アンケートの結果を踏まえ、理事会において検討を行った。ハイブリッド形式を前提とした会期短縮を支持する意見がある一方、対面での交流の期間確保を重視する意見も見られた。第 38 回年会（2028 年、千葉市）については、会場確保の都合上、2 日間の開催となる予定である。第 39 回年会は現在会場確保の調整中であるが、第 40 回年会以降は 2 日間開催を念頭に検討を続ける。

## 8. その他

他学会・関連団体との連携として、日本薬系学会連合の活動に対し、本学会より役員・委員を推薦し、同連合主催事業への参画および講師派遣等を通じて協力を行った。

## ■ 2025 年度事業報告の概要

### 〔1〕事業の部

1. 会員数（2025 年 12 月 31 日現在： 14,405 名、社・団体）  
正会員：14,034 名、 学生会員：328 名、 名誉会員：32 名、 賛助会員：11 社・団体
2. 医療薬学専門薬剤師制度の認定数（2026 年 1 月 1 日現在）  
医療薬学専門薬剤師：1,504 名（前年同日の認定数：1,548 名）  
医療薬学指導薬剤師： 824 名（前年同日の認定数：833 名）  
医療薬学専門薬剤師研修施設： 400 施設（前年同日の認定数：354 施設）
3. がん専門薬剤師制度の認定数（2026 年 1 月 1 日現在）  
がん専門薬剤師： 841 名（前年同日の認定数：827 名）  
がん指導薬剤師： 413 名（前年同日の認定数：382 名）  
がん専門薬剤師研修施設： 368 施設（前年同日の認定数：339 施設）
4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数（2026 年 1 月 1 日現在）  
薬物療法専門薬剤師： 86 名（前年同日の認定数：70 名）  
薬物療法指導薬剤師： 64 名（前年同日の認定数：61 名）  
薬物療法専門薬剤師研修施設： 284 施設（前年同日の認定数：261 施設）
5. 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定数（2026 年 1 月 1 日現在）  
地域薬学ケア専門薬剤師（暫定認定）： 53 名（前年同日の認定数：66 名）  
地域薬学ケア専門薬剤師（がん）（暫定認定）： 125 名（前年同日の認定数：148 名）  
地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）： 223 施設  
（前年同日の認定数：210 施設）  
地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設）： 163 施設  
（前年同日の認定数：176 施設）
6. 会議・委員会開催状況  
社員総会 2 回（定時・臨時 各 1 回）、定例理事会 5 回、執行部会議 11 回、予算会議 1 回、監事監査 1 回、財務委員会 1 回、役員候補者選挙管理委員会 1 回、2026-2027 年度役員候補者選挙当選者による会合 1 回、代議員選挙管理委員会 1 回、会員委員会 1 回、専門薬剤師制度運営委員会 2 回、専門薬剤師認定試験小委員会 4 回、医療薬学専門薬剤師認定委員会 4 回、がん専門薬剤師認定委員会 2 回、がん専門薬剤師試験小委員会 3 回、がん専門薬剤師能力向上小委員会 4 回、がん専門薬剤師研修小委員会 2 回、薬物療法専門薬剤師認定委員会 3 回、薬物療法専門薬剤師認定委員会・症例 1 次審査 2 回、薬物療法専門薬剤師認定委員会打合せ 1 回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会 3 回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会 4 回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会打合せ 2 回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会 3 回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会事前打合せ 3 回、地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第 1 小委員会 3 回、地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第 1 小委員会に際する事前打ち合わせ 1

回、地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第2小委員会2回、地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第2小委員会に際する事前打ち合わせ1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度に係る打合せ1回、「地域薬学ケア（がん）」査読練習後の打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度マッチング説明会共同開催に係る打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度・厚生労働省打合せ1回、広報・出版委員会1回、JPHCS編集委員会1回、医療薬学編集委員会1回、臨床研究推進委員会2回、国際交流委員会2回、多様性推進委員会1回、功績賞・振興賞選考委員会1回、学術関連賞選考委員会1回、日本医療薬学会賞等選考小委員会1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会1回、JPHCS誌論文賞選考小委員会1回、Postdoctoral Award選考小委員会1回、情報システム整備検討小委員会1回、企画・シンポジウム委員会2回、第8回フレッシュャーズ・カンファランス実行委員会1回、医療薬学学術委員会4回、2022年度医療薬学学術第3小委員会1回、2023年度医療薬学学術第1小委員会2回、2023年度医療薬学学術第3小委員会1回、2024年度医療薬学学術第1小委員会7回、2024年度医療薬学学術第3小委員会2回、2025年度医療薬学学術第1小委員会1回、2025年度医療薬学学術第2小委員会1回、2025年度医療薬学学術第3小委員会4回、2025年度医療薬学学術第4小委員会2回、年会運営実行小委員会1回、年会長候補者推薦小委員会1回、学術大会小委員会1回、がん専門薬剤師集中教育講座 合同協議1回、第36回年会 運営コンベンション会社選考ヒアリング2回、第37回年会 運営コンベンション会社選考ヒアリング1回、クラウドファンディングの活用に係る説明会1回。

## 7. 年会、フレッシュャーズ・カンファランス、医療薬学公開シンポジウム、臨床研究セミナーの活動

### (1) 年会（第35回日本医療薬学会年会）

テーマ 『医療薬学の深化と広がり—患者アウトカムの改善を目指して—』

年会長 矢野 育子（神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

現地開催及びライブ配信 2025年11月22日（土）～24日（月・祝）

オンデマンド配信 2025年12月10日（水）～2026年1月26日（月）

会場 神戸国際展示場、神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル

会場数 口演会場：14会場、ポスター：2会場、展示会場：2会場

#### 1) 演題、協賛、参加者数

年会長講演	1題
会頭講演	1題
特別講演	3題
教育講演	2題
日本医療薬学会学会賞・学術賞・奨励賞受賞講演	6題
Postdoctoral Award 受賞講演	13題
年会企画シンポジウム	5セッション（22題）
年会企画国際シンポジウム	1セッション（4題）
International Symposium	1セッション（4題）
公募シンポジウム	66セッション（318題）

医療薬学会委員会企画シンポジウム	6 セッション (29 題)
その他 (他団体共催を含む)	60 セッション (289 題)
ワークショップ	1 セッション
市民公開講座	2 セッション
一般演題	1,429 題
・口頭	299 題 (うち優秀演題候補 40 題)
・ポスター	1,130 題
International Session	20 題
・Oral	10 題
・Poster	10 題
共催セミナー (メディカルセミナー)	29 セッション
日本薬科機器協会 ワークショップ/新技術・新製品セミナー	
企業展示 (年会企業・リクルート展示(13 団体)・書籍の各展示)	47 社

◆ 参加者数 11,279 名 (一般参加 : 11,225 名、招待参加 : 54 名)

## 2) 活動成果

コロナ禍を経て第 32 回年会から現地開催を再開し、第 33 回年会では全参加登録者 10,313 名 (現地参加 46%)、第 34 回年会においては全参加登録者 10,749 名 (現地参加 52%) であったが、本年会においても全参加者 11,279 名のうち 5,853 名 (52%) が現地参加となった。本年会のメインテーマを「医療薬学の深化と広がり—患者アウトカムの改善を目指して—」と設定し、以下のプログラムを企画した。

特別講演 1 では、神戸大学長の藤澤正人先生に「デジタル・ロボット技術が拓く未来医療」、特別講演 2 では、帝京大学薬学部の安原真人先生に「薬剤師の職能とあるべき姿」、特別講演 3 では、京都大学大学院医学研究科/理化学研究所計算科学研究センターの奥野恭史先生に「AI/DX が拓くデータ駆動型創薬・医療」をご講演いただいた。

教育講演 1 では、アクセリード株式会社 CEO の池浦義典先生に「創薬イノベーションが切り拓く医療の未来」、教育講演 2 では、神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センターの真田昌爾先生に「クリニカルクエストから臨床研究を立案するとき考えるポイント」をご講演いただいた。

年会企画シンポジウムでは、シンポジウム 1 : 京都大学医学部附属病院薬剤部の寺田智祐先生に「薬剤師が変える医療のあり方: 先進的な業務を日常業務に落とし込むための方策」、シンポジウム 2 : 帝京大学大学院公衆衛生学研究科/日本フォーミュラ学会の今井博久先生と神戸市立西神戸医療センター薬剤部の森本茂文先生に「地域フォーミュラの最新動向及び災害時の有用性～阪神淡路大震災から 30 年の神戸で考える医薬品提供体制～」、シンポジウム 3 : 山形大学医学部附属病院薬剤部の山口浩明先生に「診療ガイドラインの限界と個別最適化～薬剤師が担う臨床判断の最前線～」、シンポジウム 4 : 日本大学薬学部臨床薬物動態学研究室の辻泰弘先生に「個別化医療のためのファーマコメトリクスと人材育成」、シンポジウム 5 : 千葉大学医学部附属病院薬剤部の石井伊都子先生に「近未来の薬剤師キャリアパス」を企画いただき、それぞれ活発な討論が行われ、参加者からも好評を得た。

年会企画国際シンポジウムでは、名古屋大学医学部附属病院薬剤部の池末裕明先生に「Advancing the role of pharmacists in cancer pharmacotherapy in Japan」を企画いただき、日本と米国をそれぞれリードするがん専門薬剤師に登壇いただき、臨床における業務展開や新たなエビデンスの創出など幅広い討議が行われ、がん薬物療法における薬剤師の役割をさらに前進させる契機となった。なお、本国際シンポジウムは公益財団法人小林がん学術振興会の助成を得て開催したものである。

公募シンポジウム（112件の応募）は、選考委員の評価により66件を採択した。66件のうちには、日本医療薬学会委員会企画として、がん専門薬剤師認定委員会、薬物療法専門薬剤師研修小委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会、フレッシュャーズ活性化委員会、JPHCS委員会、2024年度医療薬学学術第3小委員会からの6つのシンポジウムが含まれており、加えて2024年度医療薬学学術第2小委員会からのワークショップ1つが採択された。また、国際交流委員会からInternational Symposiumとして、「Global Perspectives in Pharmaceutical Health Care: Deepening and Expanding Clinical Pharmacy to Improve Patient Outcomes」が企画され、日本を含むアジア諸国における薬物療法の現状について活発に討論いただいた。

一般演題（1,439件の応募）は、最終的に口頭発表：299題（うち優秀演題候補40題）、ポスター発表：1,130題の合計1,433題を採択した（採択後取り下げ4題を含む。不採択：4題、取り下げ：2題）。例年通り優秀演題の選考を行い、候補40題から8題を選出した。また、International Sessionとして、20題（Oral：10題、Poster：10題）の英語発表が行われ、海外からも発表いただいた。国際交流委員会での審査の結果、International Session AwardとしてOral発表から2題を選出した。優秀演題およびInternational Session Award受賞者の10名には、年会2日目の懇親会において表彰式を執り行い、表彰状と記念品を授与した。なお、公募シンポジウムの選考評価、優秀演題のノミネート選考、優秀演題の選考にご協力いただきました各種選考委員の皆様にお礼申し上げます。

その他、市民公開講座を企画し、「ワクチンとウイルス感染症」と題して、神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学分野の森康子先生と、「薬剤師の視点が物語にもたらす影響」と題して、作家で薬剤師の愛野史香先生に講演いただき、市民の方にも多く参加いただいた。また、メディカルセミナーが29セッション開催され、リクルートコーナーにも13団体からご協力いただいた。

昨年に引き続き懇親会を、年会2日目に神戸ポートピアホテル（南館B1F 大輪田）で開催し、292名と招待者が参加し、活発に意見交換・交流いただくことができた。

各種認定の研修として、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位の発行を、日病薬病院薬学認定薬剤師制度では、セッション毎の単位発行とし、該当セッションについては現地参加、LIVE配信、後日オンデマンド配信といずれの参加形式でも取得できるようにした。なお、現地参加での単位取得では、当日該当セッション会場にてQRコードを使用した入退室管理を行った。日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度集合研修単位については、研修単位の管理運営上の問題から、現地参加者のみの取得とした。

年会期間中のLIVE配信視聴者数は合計1,865名（3日間延べ人数）、会期後のオンデマンド配信の視聴者数は合計9,644名であったが、いずれも大きなトラブルなく終了することが

できた。本年会の準備にあたっては、運営費等の高騰やメディカルセミナー協賛の減少に苦  
勞したが、天候にも恵まれ参加者数の増加に助けられた。また、第 34 回年会と二年続けて  
同一コンベンションへの委託となったため、講演者や発表者への対応、ネームカード出力コ  
ーナーの複数設置、各種認定単位への対応、誘導人員の配置などスムーズな運営が可能であ  
った。

以上、大きな混乱もなく第 35 回年会を盛会のうちに終えることができた。これは、日本  
医療薬学会理事会をはじめとする役員の皆様、事務局の皆様のご支援と、組織委員・実行委  
員・年会事務局（神戸大学医学部附属病院薬剤部）・運営事務局（JTB コミュニケーションデ  
ザイン）など本年会開催に関わった全ての皆様のご尽力、またご参加いただいた皆様および  
協賛頂いた企業のご理解とご協力の賜物であり、こころより感謝申し上げる次第である。

## (2) 第 8 回フレッシュャーズ・カンファランス

開催日 2025 年 6 月 21 日（土）～22 日（日）

実行委員長 西口 工司（京都薬科大学京都薬科大学 臨床薬学分野 教授）

会 場 京都薬科大学

教育講演 「医療薬学とともに歩んだ私のキャリア-あなたの未来へのヒント」

京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 寺田 智祐

◆ 演題数 口頭発表 40 題、ポスター発表 57 題

◆ 参加者数 284 名

## (3) 医療薬学公開シンポジウム

### 1) 第 97 回医療薬学公開シンポジウム

テーマ 未来の薬剤師

～知られざる薬剤師の世界 実はこんなに魅力的な薬剤師の世界～

実行委員長 滝澤 康志（飯山赤十字病院）

開催日 2025 年 8 月 9 日（土）

開催地 長野県飯山市 飯山市文化交流館なちゅら 大ホール

開催形式 現地開催

< 午前の部 >

#### ■ シンポジウム感染

目指せ！感染症領域のスペシャリスト！

座長：田中健二（長野県立信州医療センター） 鹿角昌平（長野中央病院）

「感染症領域の認定制度と北信地域の活動状況」

鹿角昌平（長野中央病院）

「感染制御×集中治療：中規模施設における実践と相乗効果」

金子泰也（長野市民病院）

「大学病院で働く感染制御専門薬剤師のリアル」

橋本麻衣子（信州大学医学部附属病院）

「若手薬剤師への期待～マネジメントの観点から～」

久保田健（JA 長野厚生連北信総合病院）

<午後の部>

■ シンポジウム 1

薬剤師へのエール！

座長：滝澤康志（飯山赤十字病院） 大川浩子（金沢赤十字病院）

「開拓者たれ薬剤師～未だ見た事のない新大陸へ～」

滝澤康志（飯山赤十字病院）

「入院病棟でも薬剤師さんの活躍が不可欠です」

上條浩司（JA 長野厚生連北信総合病院）

「医薬分業の深化は医療の質を向上させる」

大村健二（上尾中央総合病院）

■ シンポジウム 2

3つ星薬剤師からのメッセージ

座長：森 英樹（岡山赤十字病院） 田中健二（長野県立信州医療センター）

「素晴らしき哉、薬剤師！」

村上通康（松山赤十字病院）

「長野県職員として働く薬剤師」

飛澤知佳（北信保健所）

「『やりたいこと？特にはないです！』から始まる、意外とマジメな未来の話」

中村佳央（株式会社モリキ）

「やりがいてなんだろう？」

三浦篤史（JA 長野厚生連佐久総合病院）

「和と輪、そして笑（わ）になる薬剤師」

三宅知宏（伊勢赤十字病院）

総合討論

◆参加者数 99 名

2) 第 98 回医療薬学公開シンポジウム

テーマ チーム医療を支える薬剤師の活躍とエビデンス構築

実行委員長 岩本 卓也（三重大学医学部附属病院）

開催日 2025 年 8 月 23 日（土）

開催地 三重県津市、三重大学医学部臨床第 2 講義室

開催形式 現地開催

■ 特別講演

座長：岡本 明大（三重大学医学部附属病院薬剤部 副部長）

「薬剤師主導によるエビデンス構築」

岡田 浩（和歌山県立医科大学 薬学部 社会・薬局薬学研究室 教授）

■ シンポジウム

「各領域における専門性を生かした介入と実践例」

座長：朝居 祐貴（三重大学医学部附属病院薬剤部 講師）

平松 駿一（三重大学医学部附属病院薬剤部 助教）

① がん領域

「がん領域における専門性を生かした薬物治療への貢献」

宮崎 雅之（名古屋大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長）

② 循環器・腎臓領域

「臨床現場に根ざすシームレスな学術活動のすすめ

～循環器・腎臓領域の視点から～」

木下 照常（医療法人豊田会刈谷豊田総合病院薬剤部）

③ 集中治療・感染領域

「集中治療・感染領域における Clinical Question 解決に向けた実践例」

榎屋 友幸（鈴鹿医療科学大学薬学部薬学科医薬品情報学研究室 准教授）

④ 地域医療（薬薬連携）領域

「地域における多職種連携を通じた慢性腎臓病患者への栄養指導の実践」

朝居 祐貴（三重大学医学部附属病院薬剤部 講師）

⑤ 質疑応答を含めた総合討論

◆参加者数 57 名

3) 第 99 回医療薬学公開シンポジウム

テーマ 薬薬学連携推進による地域医療への貢献

実行委員長 中川 貴之（和歌山県立医科大学）

開催日 2025 年 10 月 25 日（土）

開催地 和歌山県和歌山市、和歌山県立医科大学薬学部 大講義室

開催形式 現地開催

■ シンポジウム

座長：江頭 伸昭（和歌山県立医科大学薬学部 医療薬剤学 教授）

松本 みさき（和歌山県立医科大学薬学部 病院薬学 准教授）

「大学と薬局が連携して実施するヘルスケア実装研究」

岡田 浩（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 特定教授）

「DX を活用した多様な機関連携による地域医療モデルの未来構想」

座間味 義人（岡山大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長）

「京都における医薬情報連携の活性化に向けた取り組み」

寺田 智祐（京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長）

「医療 DX×地域連携：薬剤関連情報のこれから」

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院 薬剤部長）

■ 口演

座長：吉田 薫（和歌山県立医科大学附属病院 薬剤部 副部長）

「家で過ごしたい」を支えるための保険薬局のかかわり」

金子 雅好（中央薬局）

「薬薬連携で支える心不全フォローアップ」

稲葉 静香（和歌山労災病院 薬剤部）

■ 特別講演

座長：今井 哲司（和歌山県立医科大学薬学部 医療開発薬学 教授）

「双方向の情報共有への模索～地域におけるチーム医療が未来への鍵」

松原 和夫（和歌山県立医科大学薬学部 教授・副薬学部長）

◆参加者数 76 名

#### 4) 第 100 回医療薬学公開シンポジウム

テーマ 多彩なデータサイエンスが織りなす医療薬学研究による変革への挑戦

実行委員長 座間味 義人（岡山大学学術研究院）

開催日 2025 年 11 月 1 日（土）

開催地 岡山県岡山市、岡山大学鹿田キャンパス 医学部鹿田会館講堂

開催形式 現地開催

特別講演

座長：座間味 義人（岡山大学学術研究院医療開発領域 薬剤部 教授・薬剤部長）

「未来をつくる医療薬学研究 ～データ駆動型アプローチの可能性と挑戦～」

石澤 啓介（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 医学域 臨床薬理学分野 教授、  
徳島大学病院 病院長補佐・薬剤部長・総合臨床研究センター部長）

#### ■シンポジウム

座長：濱野 裕章（岡山大学学術研究院医療開発領域 薬剤部 講師・副薬剤部長）

田中 雄太（岡山大学病院 薬剤部 副薬剤部長）

講演 1

「病院薬剤師業務におけるデータ活用と業務効率化への取り組み」

田中 雄太（岡山大学病院 薬剤部 副薬剤部長）

講演 2

「ゲノム情報を活用した医療・健康管理へのデータサイエンスの貢献」

武田 達明（岡山大学大学院 臨床薬学教育研究センター 薬学教育研究部門 講師）

講演 3

「多様なレジストリデータがつなぐ用量設計の新展開」

山本和宏（岡山大学学術研究院医歯薬学域 臨床基礎統合薬学分野 教授）

講演 4

「疾患構造の可視化と予測に向けた臨床疫学とデータサイエンスの融合」

小山 敏広（岡山大学学術研究院 医歯薬学域 薬学データサイエンス分野 教授、  
ハイフォン医科薬科大学 名誉教授）

講演 5

「医療情報を用いた薬物療法の質的向上への挑戦」

濱野 裕章（岡山大学学術研究院医療開発領域 薬剤部 講師・副薬剤部長、  
九州大学システム情報科学研究院 学際情報学特別部門 准教授）

◆参加者数 53 名

#### (4) 第 5 回臨床研究セミナー

テーマ 臨床研究入門講座 1～8

開催日 【ライブ配信】2025年4月20日(日)

【オンデマンド配信】2025年5月15日(木)～7月2日(水))

開催形式 Web開催(ライブ配信 + オンデマンド配信)

- 1 臨床研究とは(総論) 座長 山口 浩明(山形大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)  
新岡 丈典(弘前大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)
- 2 前向き研究 座長 岩本 卓也(三重大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)  
島ノ江 千里(佐賀大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)
- 3 後向き研究 座長 岩本 卓也(三重大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)  
今任 拓也(福岡大学薬学部 講師)
- 4 統計(基礎) 座長 横山 聡(近畿大学薬学部 准教授)  
松野 純男(近畿大学薬学部 教授)
- 5 統計(応用) 座長 横山 聡(近畿大学薬学部 准教授)  
宮田 優希(東京大学医学部附属病院薬剤部)
- 6 研究倫理と審査 座長 菊池 千草(昭和薬科大学薬学部 教授)  
合田 光寛(広島大学大学院医系科学研究科 教授)
- 7 多機関共同研究 座長 細谷 治(日本赤十字社医療センター 薬剤部長)  
河添 仁(慶應義塾大学医学部 准教授)
- 8 症例報告 座長 細谷 治(日本赤十字社医療センター 薬剤部長)  
町田 聖治(小倉記念病院 薬剤部長)

◆参加者数 455名

## 8. 各委員会活動

### (1) 企画・シンポジウム委員会

#### 1) 医療薬学公開シンポジウムの開催

第97回から第100回までの4回の医療薬学公開シンポジウムの開催および開催支援を行った。

- ① 第97回 飯山市、滝澤 康志(飯山赤十字病院)  
開催日 2025年8月9日(土)、飯山市文化交流館なちゅら  
テーマ 『未来の薬剤師～知られざる薬剤師の世界 実はこんなに魅力的な薬剤師の世界～』
- ② 第98回 津市、岩本 卓也(三重大学医学部附属病院)  
開催日 2025年8月23日(土)、三重大学医学部  
テーマ 『チーム医療を支える薬剤師の活躍とエビデンス構築』
- ③ 第99回 和歌山市、中川 貴之(和歌山県立医科大学薬学部)  
開催日 2025年10月25日(土)、和歌山県立医科大学薬学部  
テーマ 『薬薬学連携推進による地域医療への貢献』
- ④ 第100回 岡山市、座間味 義人(岡山大学学術研究院)  
開催日 2025年11月1日(土)、岡山大学鹿田キャンパス  
テーマ 『多彩なデータサイエンスが織りなす医療薬学研究による変革への挑戦』

#### 2) 2026・2027年度の医療薬学公開シンポジウムの開催方法・計画の検討

2026年度および2027年度の公開シンポジウム（各4回）の開催地、実行委員長の候補などを検討し、以下のとおり決定した。（年度内順不同）

- ① 2026年度（第101回から第104回）：
  - ・ 東京都：花輪 剛久（東京理科大学薬学部）
  - ・ 滋賀県：森田 真也（滋賀医科大学医学部附属病院）
  - ・ 高知県：浜田 幸宏（高知大学医学部附属病院）
  - ・ 佐賀県：島ノ江 千里（佐賀大学医学部附属病院）
- ② 2027年度（第105回から第108回）：
  - ・ 千葉県：柴田 ゆうか（日本大学薬学部）
  - ・ 山梨県：鈴木 貴明（山梨大学医学部附属病院）
  - ・ 島根県：矢野 貴久（島根大学医学部附属病院）
  - ・ 鹿児島県：寺菌 英之（鹿児島大学病院薬剤部）

## (2) フレッシュヤーズ活性化委員会

- 1) 第8回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催した。
  - ・ 実行委員長 西口 工司（京都薬科大学 教授）
  - ・ 開催日 2025年6月21日（土）、22日（日）
  - ・ 会場 京都薬科大学（京都市山科区）
  - ・ 開催形式 現地開催
- 2) 第9回フレッシュヤーズ・カンファランスの実行委員長を決定し、開催計画を検討した。
  - ・ 実行委員長 濃沼 政美（帝京平成大学 教授）
  - ・ 開催予定日 2026年7月4日（土）、5日（日）
  - ・ 会場 帝京平成大学（東京都中野区）
  - ・ 開催形式 現地開催

## (3) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第51巻1号～12号を編集・発行した。
  - ① 年間 146編の論文投稿を受付け、56編を採択した。（前年の投稿数は 122 編）
  - ② 第51巻に 83編の論文を掲載した。（前年の掲載数は 70 編）  
内訳：総説1編、一般論文 33 編、ノート 48 編、ミニレビュー1 編
  - ③ 見かけの採択率は 52.3%であった。
  - ④ 第51巻の毎号に専門薬剤師リレーエッセイを掲載した。
  - ⑤ Postdoctoral Award 受賞者による研究紹介文 12 編、海外研修等参加報告書 3 編を掲載した。
- 2) 2026年2月より別刷の作成・送付の有料化に移行するため、投稿規定を改訂した。

## (4) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌「Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS)」の第11巻（2025年）を編集・発行した。
  - ① 年間 345編の論文投稿を受付け、107編を採択した。（前年の投稿数 236 編、採択数 78 編）

- ② 第 11 巻に 110 編の論文を掲載した。(前年の掲載数は 82 編)  
 内訳：Research 81 編、Case report 18 編、Brief Report 9 編、Review 2 編
- ③ 見かけの採択率は 37.6%であった。
- 2) 投稿数が非常に増加している現状に鑑み、編集委員が不足している領域を中心に、11 月 1 日より 5 名の委員を増員した。
- 3) 2025 年発表のジャーナルインパクトファクターとして 1.2 を維持した。
- 4) 第 35 回日本医療薬学会年会において、本委員会が企画したシンポジウム「タイトル：医療薬学会の英文誌 (JPHCS) へ受理されるための秘訣」を開催した。
- 5) 2022-2023 年の掲載論文のうち引用数が多い論文 TOP10 がジャーナルサイトに掲載された。(https://link.springer.com/journal/40780/updates/27798250)
- (5) 専門薬剤師制度運営委員会
- 1) 各専門薬剤師制度間の整合化や情報の共有  
 各専門薬剤師認定制度の規程、細則の改正に関わる事項の検討、会頭からの諮問事項に関する確認と検討、2026 年度の各制度の申請スケジュール等を整理した。
- 2) 小委員会の活動
- ① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会  
 2025 年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義をオンラインで開催した。  
 配信期間 2025 年 7 月 1 日(火)～8 月 29 日(金)  
 参加者数 715 名
- ② 専門薬剤師認定試験小委員会  
 2025 年度専門薬剤師認定試験問題を作成、実施した。  
 本試験と同一内容である生涯学習達成度確認試験の結果を加味し合否判定案を作成した。  
 試験日 2025 年 7 月 27 日(日)  
 受験者数 32 名、合格者数 31 名(2025 年度専門薬剤師認定試験のみ)
- ③ 専門薬剤師制度支援システム検討 WG  
 専門薬剤師制度資格申請システムの申請者機能の構築を進めた。2025 年度は、がん専門薬剤師の新規認定、薬物療法専門薬剤師の新規(一部)・更新の各申請を除いて、本システムを利用しながら構築・調整を進めた。
- (6) 医療薬学専門薬剤師認定委員会
- 1) 新規認定および更新認定は、次の通り。
- ① 医療薬学専門薬剤師：新規認定(正規)45 名、暫定から正規への移行 29 名  
 更新認定 78 名、更新保留 3 名
- ② 医療薬学指導薬剤師：新規認定 41 名、更新認定 112 名、更新保留 1 名
- ③ 医療薬学専門薬剤師研修施設：新規認定 35 施設(基幹 26 施設、連携 9 施設)  
 更新認定 56 施設(基幹 49 施設、連携 7 施設)
- 2) 医療薬学専門薬剤師認定制度規程細則の改訂を行った。
- 3) 会頭の諮問を受け医療薬学専門薬剤師の社会貢献、資質、能力に関する議論を継続的

に協議した。

4) 第36回日本医療薬学会年会の委員会企画シンポジウムについての検討を開始した。

(7) がん専門薬剤師認定委員会

1) 新規認定および更新認定は、次の通り。

- ① がん専門薬剤師：新規認定 40 名、更新認定 120 名、更新保留 13 名
- ② がん指導薬剤師：新規認定 34 名、更新認定 43 名、更新保留 1 名
- ③ がん専門薬剤師研修施設：新規認定 16 施設（基幹 12 施設、連携 4 施設）  
更新認定 19 施設（基幹施設）

2) 教育啓発活動として、第35回日本医療薬学会年会でシンポジウムを開催、日本病院薬剤師会との合同でがん専門薬剤師集中教育講座をオンラインで開催、及び日本薬学会第145年会においてシンポジウムを共催、がん専門薬剤師全体会議はハイブリッドで開催した。症例のスキルアップセミナーを2月に、アドバンスト研修会を3月にそれぞれオンラインで開催した。

3) 小委員会の活動

① がん専門薬剤師試験小委員会

2025年度がん専門薬剤師認定試験問題を作成、実施および合否判定案を作成した。

試験日 2025年6月14日（土）

受験者数 49 名、合格者数 40 名、合格率 81.6%

② がん専門薬剤師研修小委員会

i) がん専門薬剤師集中教育講座をオンラインで開催した。（日本病院薬剤師会と共催）

配信期間 2025年10月30日～2026年1月5日

申込者数 2,520 名

ii) 他学会・団体が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

iii) がん専門薬剤師養成研修ガイドラインおよびコアカリキュラムを更新した。

iv) 第4回がん介入症例の書き方スキルアップセミナーをオンラインで開催した。

開催日 2025年2月8日（土）

参加者数 28 名

③ がん専門薬剤師能力向上小委員会

i) 第11回がん専門薬剤師アドバンスト研修会をオンラインで開催した。

開催日 2025年3月2日（日）

参加者数 24 名

ii) 第12回がん専門薬剤師全体会議をハイブリッド形式で開催した。

開催日 2025年5月10日（土）

開催地 東京都

参加者数 現地 126 名、オンライン（Live 配信）363 名

iii) がん専門薬剤師メーリングリスト（ML）を更新し、がん専門薬剤師は 677 名／有資格者 825 名（委員長/ML 管理者 4 名を含む）、がん指導薬剤師は 344 名／有資格者 384 名（委員長/ML 管理者 4 名を含む）を登録した。

(8) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1) 新規認定および更新認定は、次の通り。
  - ① 薬物療法専門薬剤師：新規認定 25 名、更新認定 2 名
  - ② 薬物療法指導薬剤師：更新認定 16 名
  - ③ 薬物療法専門薬剤師研修施設：新規認定 20 施設（基幹 18 施設、連携 2 施設）  
更新認定 50 施設（基幹 45 施設、連携 5 施設）
- 2) 2025 年度薬物療法専門薬剤師の症例報告の書き方セミナーをオンラインで開催した。  
開催日（Live 配信）2025 年 6 月 15 日（日）  
（オンデマンド配信）2025 年 6 月 26 日（木）～8 月 27 日（水）  
参加者数 139 名
- 3) 薬物療法専門薬剤師研修小委員会の活動
  - ① 第 1 回薬物療法専門薬剤師全体会議を対面で開催した。  
対 象：薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師の認定者  
開催日：2025 年 11 月 22 日（土）18:00～20:00  
参加者数 56 名
  - ② 第 35 回日本医療薬学会年会において、シンポジウム「ジェネラリストを超えた薬剤師の活躍－薬物療法専門薬剤師の活躍に必要な研修とは－」を開催した。
  - ③ 薬物療法専門薬剤師養成研修ガイドラインおよびコアカリキュラムの改訂に係る検討を行った。
  - ④ 会頭からの諮問事項に関する検討を行った。

(9) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1) 新規認定は、次の通り。
  - ① 地域薬学ケア専門薬剤師：正規認定 14 名（審査継続中 15 名）、  
暫定認定(初回)1 名・(2 回目) 1 名
  - ② 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）：正規認定 20 名（審査継続中 32 名）、  
暫定認定(初回)3 名・(2 回目) 4 名
  - ③ 地域薬学ケア指導薬剤師：新規認定 3 名（審査継続中 5 名）
  - ④ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設：新規認定 10 施設（基幹 6 施設、連携 4 施設）  
更新認定 236 施設（基幹 147 施設、連携 89 施設）
- 2) 地域薬学ケア専門薬剤師制度における研修者と基幹施設のマッチングに関する WEB 研修会として「地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修マッチングに係る全国説明会」を日本薬剤師会・都道府県薬剤師会と協力して実施した。
- 3) 各都道府県薬剤師会との連携に基づき研修希望者と研修施設のマッチングを実施した。
- 4) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の正規認定に向け認定要件や認定審査の方法などを検討した。
- 5) 地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の活動  
他団体の講習会について、単位申請を受け付けて審査を実施した。
- 6) 地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第 1 小委員会  
地域薬学ケア専門薬剤師の症例審査を行った。
- 7) 地域薬学ケア専門薬剤師症例審査第 2 小委員会

地域薬学ケア専門薬剤師(がん)の症例審査を行った。

(10) 医療薬学教育委員会

1) 第8回フレッシュャーズ・カンファレンスの企画・運営

フレッシュャーズ活性化委員会と協働し、本カンファレンスの2日目に参加者間や委員と交流できる本委員会企画を実施した。

2) 第9回フレッシュャーズ・カンファレンスでの企画検討

フレッシュャーズ活性化委員会および実行委員長と協働し、2026年7月実施の本カンファレンス内で学会活動に継続的に参加し、参加者間や委員と交流できるような委員会企画を検討した。

3) フレッシュャーズ活性化委員会企画の年会シンポジウムでの発表

第35回日本医療薬学会年会において、本委員会が企画したシンポジウム「フレッシュャーズを支える！在学中から臨床現場へ、シームレスで持続可能な臨床研究基盤の構築」を開催し、フレッシュャーズ・カンファレンスでの取り組みを紹介した。

(11) 国際交流委員会

1) 第35年会(神戸)における英語セッションの企画運営

年会1日目である2025年11月22日(土)に、以下の通り、国際シンポジウムおよびセッション等の企画運営を行った。

・International Symposium "Global Perspectives in Pharmaceutical Health Care: Deepening and Expanding Clinical Pharmacy to Improve Patient Outcomes"を企画・運営した。韓国、台湾、日本から各1名の演者を招いての講演が行われた。(中国にあつては、相手国の国内情勢に基づき会期直前に先方より参加取消の申入れがあり、これを受理した。)

・International Session (Oral) 1, 2を企画・運営し、10題の英語による口頭演題が行われ、2題のAwardの選考を行った。

・International Session (Poster) のプログラムを編成し、10題の英語によるポスター発表が行われた。

・国際交流会を開催した。(参加者 日本側: 会頭、国際交流委員5名、海外: 韓国27名)

2) 年会における国際交流活動の実施方法の検討

次年度年会以降の国際交流活動の実施方法について検討し、日本病院薬剤師会と協力して共催することを決定した。

3) 海外研修等助成制度の運用

2025年度海外研修等助成員を3期に分けて募集し、第1期(2025/2/7締切、応募4名)に4名、第2期(2025/6/6締切、応募1名)に1名、合計5名の候補者を選出した。なお、第2期で本年度の予定数(5名)に達したため、第3期の募集は実施しなかった。

(12) 医療薬学学術委員会

1) 各医療薬学学術小委員会の活動について

- ① 2023 年度医療薬学学術第 1 小委員会（青森達委員長）
- テーマ「電子添付文書および添文ナビの利活用実態と、その普及に向けた調査研究」
- ・電子添文の閲覧環境、利用状況、改善要望等に関するインタビュー調査、ならびに、電子カルテ等の導入状況、電子添文の閲覧手段、添文ナビの認知・利用状況、望ましい機能やレイアウト等に関するアンケート調査を実施した。
  - ・電子的な医薬品情報の提供方法についての提言書を作成した。
- ② 2023 年度医療薬学学術第 3 小委員会（百賢二委員長）
- テーマ「院内製剤の全国実態調査と医療ビッグデータを用いた医薬品開発シーズの探索」
- ・日本薬剤学会臨床製剤 FG とのコラボレーションを通じて、臨床現場における製剤開発ニーズの構造的整理を進めた。
  - ・本学会年会等において、臨床製剤に関するシンポジウムを実施し、臨床製剤を取り巻く制度面・運用面の課題、ならびに具体的な製剤事例に関する情報共有をするとともに、今後の標準化・市販化に向けた論点整理を進めた。
  - ・医療現場の院内製剤実態把握を目的とした聞き取り調査として全国規模のアンケート調査を実施した。
  - ・ビッグデータを用いた疫学的解析により、製剤開発の優先度が高い品目を効率的に抽出する手法を構築した。
- ③ 2024 年度医療薬学学術第 1 小委員会（岩尾一生委員長）
- テーマ「医歯薬連携による薬剤関連顎骨壊死の副作用報告体制の構築」
- ・日本医療薬学会会員の病院診療所薬剤師が所属する医療機関を対象とした MRONJ に係る副作用報告や救済制度の実態把握のためのアンケート調査を実施した。
  - ・上記の結果、MRONJ 症例での副作用報告や救済制度利用は少なく、MRONJ リスク患者に対する歯科との連携に課題があることを本学会年会にて発表した。
  - ・全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会の会員施設を対象とした、MRONJ に係る副作用報告や救済制度の実態把握を目的としたアンケート調査案を作成した。
  - ・小委員会構成委員の所属施設を対象とした副作用報告や救済給付の申請を適正に行うための各種制度に関する勉強会を開催した。
- ④ 2024 年度医療薬学学術第 2 小委員会（大野能之委員長）
- テーマ「医療現場における適正な薬物相互作用マネジメントのための包括的基盤の構築」
- ・作成した代謝酵素やトランスポーターの阻害薬、誘導薬及び基質のリストの活用やクリアランス理論に基づく相互作用による血中濃度の変化率の算出やそれに基づくマネジメントの考え方についての理解及び認知度の向上を目指すための Workshop を第 58 回日本薬剤師会学術大会及び本学会第 35 回年会において開催した。
  - ・本学会ホームページに「代謝酵素 (P450 分子種) およびトランスポーターを介する相互作用において留意すべき薬物のリスト-第 1 版-」を掲載した。続いて改訂作業を進め、第 2 版ではトランスポーターの BCRP、OAT1、OAT3、MATE、MATE2-K、OCT2 の基質、阻害薬について拡充するとともに、新医薬品等の薬剤を追加した。
  - ・2026 年 1 月に「薬物相互作用情報を読み取り、活用し、創出する」というテーマで日本医薬品情報学会と本委員会共催のフォーラムを開催予定である。
- ⑤ 2024 年度医療薬学学術第 3 小委員会（清宮啓介委員長）

テーマ「生成系 AI の薬剤師業務への応用に関する実態、課題やニーズの調査」

- ・生成 AI の活用状況について本学会の会員が所属する施設および各会員を対象としてアンケート調査を実施、その結果について論文として医療薬学誌へ投稿し、アクセプトされた。
- ・本学会第 35 回年会においてシンポジウムを開催し、上記のアンケート結果の概略や生成 AI の種類と特徴について発表した。

⑥ 2025 年度医療薬学学術第 1 小委員会（菊地正史委員長）

テーマ「地域医療構想の実現に向けた病院薬剤師確保対策と医療薬学教育に関する調査研究」

- ・アンケートの調査項目を立案したが、内容や対象などの再考が必要になったことから、本年度に実施予定であった調査は次年度に持ち越しとなった。

⑦ 2025 年度医療薬学学術第 2 小委員会（野口義紘委員長）

テーマ「自発報告データベースに登録されている有害事象発症時間についての適切な解析・報告方法についての研究」

- ・自発報告データベースに登録されている有害事象の発症時間を対象とした解析手法について、文献調査を実施し、統計学的観点および薬剤疫学的観点から考察・検討を行った。
- ・自発報告データベースを用いた時間解析の解析・報告の手引き（ドラフト）の作成に着手した。

⑧ 2025 年度医療薬学学術第 3 小委員会（岩澤真紀子委員長）

テーマ「患者・市民に対する e ヘルスリテラシー向上を目的とした薬剤師による教育プログラムの開発と実装」

- ・北里大学薬学部オープンキャンパスにおいて、高校生や保護者を対象にヘルスリテラシーに関する講義およびアンケート（初期案）を実施した。
- ・上記アンケート内自由記載で収集した「薬に関する疑問」について、委員で分担し、Q&A 集の作成に着手した。

⑨ 2025 年度医療薬学学術第 4 小委員会（田中みずき委員長）

テーマ「ヘルスリテラシー向上のための教育の現状と今後の展望」

- ・アンケートの内容・設問などについて議論を重ね、倫理申請書類を作成し、アンケートを開始した。

2) 2026 年度に向けた医療薬学学術小委員会の新規募集について

2026 年 4 月以降に発足する医療薬学学術小委員会の研究テーマを以下のように設定し、公募手続を進めた。

①本学会として取り組むべき、または推進すべき活動

（例）薬剤師職能・専門性の将来展開と学術的基盤の醸成、他学会等との連携推進、研修教育・情報共有のあり方、地域医療連携など

②各領域、疾患群における臨床薬学のエビデンス構築につながる活動

（例）プレジジョン・メディシンに関する研究、PBPM を活用したアウトカム・エビデンス、処方箋鑑査・疑義照会のチェックポイントマニュアル作成のための活動など

③多施設共同研究、分野連携型の医療薬学研究の基盤整備に関する活動

(例) 患者レジストリーのシステム整備、トランスレーショナルリサーチ及びリバーズトランスレーショナルリサーチの体制整備、医療ビッグデータの利活用など

④医療 DX 推進に関する活動

(例) 電子処方箋に関する調査研究、電子化された添付文書の活用、IoT の利活用に関する調査研究、電子データの標準化・共有化に関する調査研究など

⑤患者が主体となる医療体制の構築、それを実現するためのヘルスリテラシー向上を目指した活動

(例) 幼児・学童向けの医薬品情報提供資材作成による理解度深化、講習会を介した医薬品理解向上のための取り組み、地域連携など

3) 医療薬学学術小委員会のあり方について

これまでの活動実績を踏まえ、今後の学術小委員会のあり方について検討を始めることとした。

(13) 臨床研究推進委員会

1) 第 5 回臨床研究セミナー『臨床研究入門講座 1～8』をオンラインで開催した。

受講対象者は、初学者および初学者を指導する薬剤師を念頭にし、テーマは、研究に着想し、臨床研究倫理審査委員会を通して、論文の執筆にまで至ることが可能になるものを意識した。

開催日 ライブ配信：2025 年 4 月 20 日（日）

オンデマンド配信：2025 年 5 月 15 日（木）～7 月 2 日（水）

参加者数は、455 名であった。

2) 第 6 回臨床研究セミナーの開催日を 2026 年 4 月 19 日（日）に決定した。

(14) 広報・出版委員会

1) 広報用リーフレットの作成

主に薬学生を対象とした広報用リーフレット（入会案内）を改訂し、全国の薬学部および関連団体などに配布した。

次年度以降の広報用リーフレットの在り方（紙面で継続するか、電子媒体とするか）を検討し、電子媒体とする方針を決めた。

2) ホームページの運用

リニューアル後のホームページに必要な原稿を依頼した。今後の情報発信のため SNS 活用に向けた基本的なルール作りを開始した。

3) 出版小委員会が担う「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂に係る出版活動を支援した。

①書籍の構成を確定した。

②項目ごとに著者を選定し、原稿作成を依頼した。

③作成された原稿を、出版小委員会ならびに本委員会で読み合せ、最終原稿とした。

④第 36 回年会までに出版できるよう準備を進めた。

(15) 会員委員会

- 1) 休会届を審査して認定した。
- 2) 会費未納者から提出された会員資格継続の嘆願を審査し、理事会に諮った。
- 3) 会頭からの諮問事項を検討した
- 4) 会員アンケート調査を実施し、会員ニーズ、学会活動への参画状況やライフイベントが学会活動に与える影響を把握した。

(16) 総務委員会

- 1) 2024 年度事業報告の草案を検討した。
- 2) 2026 年度事業計画の草案を検討した。
- 3) 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会および学会事務局との連携を推進した。
- 4) 働き方改革・感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電子化を推進した。
- 5) 諸規程の整備・定款見直しの必要性を検討した。
- 6) 事務局体制の強化を検討した。
- 7) 小委員会の活動
  - ① 年会運営実行小委員会  
年会長を交えて、年会運営に関する必要な事項を共有・検討した。
  - ② 年会長候補者推薦小委員会  
第 39 回年会（2029 年開催）の年会長候補者として、田崎嘉一（旭川医科大学病院 教授・薬剤部長）を選出した。

(17) 財務委員会

- 1) 2024 年度決算報告書を取りまとめた。
- 2) 予算の執行状況と適切性を監視した。
- 3) 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会および学会事務局との連携を推進した。
- 4) 2026 年度予算案を作成した。
- 5) 学会誌の電子化をはじめとする財政健全化策について検討した。

(18) 功績賞・振興賞選考委員会

- ① 功績賞（受賞者 1 名）
  - ・ 本間 真人（筑波大学附属病院）
- ② 振興賞の受賞該当者なし。

(19) 学術関連賞選考委員会

- 1) 日本医療薬学会賞等選考小委員会、Postdoctoral Award 選考小委員会、医療薬学誌論文賞選考小委員会および JPHCS 誌論文賞選考小委員会の各委員会にて一次選考された候補者について、二次選考を行い、理事会に諮り下記の受賞者、受賞論文を決定した。
- 2) 学術賞と奨励賞の規程を改正し、授賞人数を両賞あわせて 6 名以内に変更した。
  - ① 日本医療薬学会賞（受賞者 1 名）
    - ・ 奥田 真弘（大阪大学医学部附属病院）

研究の主題 薬物トランスポーターが関わる臨床薬物相互作用に基づく医療薬学研究

② 学術賞（受賞者 1 名）

- ・ 百 賢二 （昭和医科大学薬学部）

研究の主題 個と集団をつなぐ薬学的課題解決に向けたエビデンスの構築と実践

③ 奨励賞（受賞者 4 名）

- ・ 冢瀬 諒 （京都薬科大学臨床薬剤疫学分野）

研究の主題 多様なリアルワールドデータを駆使したがん領域における副作用の評価と医療薬学研究の新たな展開

- ・ 梅村 拓巳 （公立陶生病院）

研究の主題 薬剤耐性（AMR）対策推進を目指した臨床感染症学・医療薬学研究の実践と臨床的意義

- ・ 二瓶 哲 （岩手医科大学附属病院）

研究の主題 がん薬物療法時の腎障害に対する新たな治療法開発を目指した研究

- ・ 吉川 直樹 （宮崎大学医学部附属病院）

研究の主題 個別化医療における薬物動態制御を基盤とした新規治療戦略に関する医療薬学研究

④ Postdoctoral Award（受賞者 13 名）

- ・ 伊藤 紗代 （東京大学医学部附属病院）

学位論文題目 薬物の VLDL/LDL への分布しやすさが薬物動態および薬効に及ぼす影響の解析

- ・ 上田 一奈太 （北海道大学大学院薬学研究院）

学位論文題目 アルデヒドオキシダーゼを介した薬物間相互作用および個体間差に関する研究

- ・ 大野 由紀子 （岡山大学病院）

学位論文題目 自然言語処理技術を用いた医療記録からの症状抽出方法に関する研究～患者の主観的情報に焦点を当てて～

- ・ 長 邑花 （浜松医科大学医学部附属病院）

学位論文題目 骨格筋萎縮病態による敗血症増悪に関する研究

- ・ 神田 将哉 （旭川医科大学病院）

学位論文題目 Discovery of preventive drugs for cisplatin-induced acute kidney injury using big data analysis

- ・ 木崎 速人 （慶應義塾大学薬学部）

学位論文題目 介護施設の非医療者が経験する薬剤関連インシデントの分析基盤の構築に関する研究

- ・ 清宮 啓介 （慶應義塾大学病院）

学位論文題目 医薬品と抗体薬物複合体（ADC）の相互作用に関する研究

- ・ 白石 ちひろ （福岡大学薬学部）

学位論文題目 Factors for the development of anemia in patients with newly introduced olaparib: A retrospective case-control study

- ・ 辻中 海斗 （徳島大学病院）

- 学位論文題目 血管新生阻害剤特異的な高血圧は大動脈解離発症のリスクを高める
- 増田 崇 (京都大学医学部附属病院)  
学位論文題目 蛋白尿を呈するがん患者における抗体医薬品ベバシズマブの体内動態変動に関する研究
  - 丸山 真一 (済生会横浜市東部病院)  
学位論文題目 Quantitative determination of plasma cabozantinib concentration using HPLC-UV and its application to patients with renal cell carcinoma
  - 山口 諒 (東京大学医学部附属病院)  
学位論文題目 抗 MRSA 薬の適正使用に向けたエビデンス構築に関する研究
  - 山田 楊太 (福岡大学筑紫病院)  
学位論文題目 薬剤師が主導する Antimicrobial Stewardship と診断支援に関する臨床研究
- ⑤ 医療薬学誌論文賞 (受賞論文 3 編)
- 論文題目 日本のがん専門病院における抗がん薬調製時のフルオロウラシルの環境汚染およびその代謝物である  $\alpha$ -fluoro- $\beta$ -alanine の職業性曝露に関する多施設共同研究  
著者 佐野慶行, 森田(小川)智子, 田内淳子, 魚井みゆき, 佐藤(中寫)明香, 小暮友毅, 鈴木訓史, 赤木徹, 齊藤真一郎  
(医療薬学 Vol. 50, No. 5, 228-235)
  - 論文題目 マスメディアの「医薬品」に関する報道が患者に及ぼす影響—インターネットパネルと保険薬局の来局者を対象としたアンケート調査—  
著者 今井俊吾, 小野貴登, 阿部真也, 松井洸, 卯田健太, 佐山杏子, 木崎速人, 山口浩, 野村和彦, 堀里子  
(医療薬学 Vol. 50, No. 7, 319-327)
  - 論文題目 抗 EGFR 抗体薬使用患者における皮膚障害に対する多職種連携による早期介入の有用性  
著者 佐野尚平, 亀位耕平, 伊藤雄大, 栩野有輝, 嶋本めぐみ, 江川英毅, 平岡芹菜, 岸部美和子, 杉本里実, 上中智香子, 山本有紀, 上田弘樹, 須野学, 中川貴之, 松原和夫  
(医療薬学 Vol. 50, No. 10, 523-530)
- ⑥ JPHCS 誌論文賞 (受賞論文 3 編)
- 論文題目 Medication reconciliation by pharmacists for pre-admission patients improves patient safety  
著者 Yunami Yamada, Ryo Kobayashi, Taishi Yamamoto, Hironori Fujii, Hirotooshi Iihara, Kato Hayashi Hiroko, Shohei Nishida, Ryo Hoshino, Takashi Niwa, Keisuke Kumada, Masahito Shimizu and Akio Suzuki  
(JPHCS 2024 10:19)

- ・ 論文題目 Effects of famotidine use during pregnancy: an observational cohort study  
 著 者 Ayako Nishimura, Ayako Furugen, Masaki Kobayashi, Yoh Takekuma, Naho Yakuwa, Mikako Goto, Masahiro Hayashi, Atsuko Murashima and Mitsuru Sugawara  
 (JPHCS 2024 10:70)
- ・ 論文題目 Effect of changes in skin properties due to diabetes mellitus on the titration period of transdermal fentanyl: single-center retrospective study and diabetic animal model study  
 著 者 Satoshi Mizuno, Makiko Takabayashi, Hiroko Makihara, Kazuhiro Ogai, Kei Tsukui, Yuriko Ito, Takahiro Kawakami, Yusuke Hara, Arimi Fujita, Yoshihiro Tokudome, Tomoko Akase, Yukio Kato, Tsutomu Shimada and Yoshimichi Sai  
 (JPHCS 2024 10:80)

#### (20) 選挙制度委員会

- 1) 2025-2026 年度代議員の選出（代議員候補者推薦委員会、代議員選挙管理委員会）
  - ・代議員候補者推薦委員会において、2025-2026 年度の代議員候補者を推薦した。
  - ・代議員選挙管理委員会では、立候補者と推薦候補者を合わせて 2025-2026 年度代議員選挙を実施し、336 名の代議員を選出した。
- 2) 2026-2027 年度役員候補者の選出（役員候補者選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会）
  - ・役員候補者選挙管理委員会は、2026-2027 年度役員候補者選挙の公示、投票開票を実施し、理事候補 12 名および監事候補 1 名の当選者を決定した。
  - ・2026-2027 年度役員候補者推薦委員会が編成され、推薦候補者の選任準備を進めた。

#### (21) 利益相反マネジメント委員会

- 1) 利益相反 (COI: Conflict of interest) の申告対象者の利益相反状態を確認した。
  - ・本学会の利益相反マネジメント規程に基づき、対象者に対し自己申告書の提出を依頼し (2025 年 8 月 25 日)、対象者 312 名全員から提出を得、利益相反マネジメント委員会において当該規定に則り利益相反の状況を確認した。
  - ・数名の利益相反の申告があったが、疑義もしくは社会的・法的問題に抵触するような重大な利益相反は認められず、その旨、理事会に報告した (2025 年 12 月 25 日)。
- 2) 病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法 (改訂第 3 版) の執筆者の利益相反状態を確認した。
  - ・執筆者 35 名について自己申告書の提出を依頼し (2025 年 2 月 3 日)、全員より提出を得、利益相反マネジメント委員会において当該規定に則り利益相反の状況を確認した。
  - ・数名の利益相反の申告があったが、疑義もしくは社会的・法的問題に抵触するような重大な利益相反は認められず、その旨、理事会に報告した (2025 年 6 月 2 日)
- 3) 申告書類の保管管理を行った。

・提出された申告書は事務局がドロップボックスで保管、利益相反マネジメント委員会が利益相反の状況をドロップボックス上で確認した。なお、ドロップボックスはアクセス権を限定し事務局にて厳格に管理している。

(22) 多様性推進委員会

次期委員会の改編に向け、多様性の推進を目的として、代議員を対象に委員会活動への参加意向を確認するアンケート調査を実施した。結果は次期委員長就任予定者に提供し、委員会編成の参考とする。

(23) 情報システム整備委員会

1) 情報システム検討小委員会の編成

情報システム検討小委員会を編成した。

2) 他学会の状況も踏まえ、将来に向けた理想的なシステムについて話し合い、その後、実現可能な内容に調整することとした。

3) 各委員会を対象に情報システム整備に関するアンケート調査の実施を検討した。具体的な調査項目について委員の意見を集約した。

(24) 日本薬系学会連合への協力

一般社団法人日本薬系学会連合主催の記念フォーラムの企画・運営に参画するとともに、役員推薦・就任を通じて同連合への関与を進めた。

(25) 日本学術会議への参画

日本学術会議協力学術研究団体の一員として、継続して同学術会議の活動に参画した。

(26) 人事委員会

事務局職員の管理監督を行った。

9. 令和7年度がん専門薬剤師集中教育講座

配信期間 2025年10月30日(木)～2026年1月5日(月)

開催形式 オンライン・オンデマンド配信

<プログラム>

● 必須講義

「がん薬物療法の臨床薬理」 立命館大学 薬学部 准教授 野田 哲史

「支持療法」 日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 技術長補佐 葉山 達也

「がん薬物療法の臨床試験」  
名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授 部長 安藤 雄一

「安全ながん薬物療法の実践」  
鹿児島大学病院 薬剤部 准教授・副薬剤部長 末次 王卓

「緩和医療とがん疼痛治療」  
医療法人社団悠翔会 くらしケアクリニック練馬 院長 田上 恵太

「がんの発生、転移、薬剤耐性」

公益財団法人がん研究会がん化学療法センター 分子生物治療研究部 主任研究員 馬島 哲夫

「悪性リンパ腫の薬物療法」

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 錦織 桃子

「胃がんの薬物療法」

九州大学病院 先端医工学診療部 教授 沖 英次

「肺がんの薬物療法」 高知大学 医学部 呼吸器・アレルギー内科学講座教授 上月 稔幸

「乳がんの薬物療法」

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科・副診療部長 教授 石黒 洋

「大腸がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 部長 山崎 健太郎

「肝臓、胆道がんの薬物療法」

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 科長・副院長 池田 公史

「膵臓癌の薬物療法」

千葉大学医学部附属病院 腫瘍内科 課長代理 大野 泉

「泌尿器がん」 琉球大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科学講座 教授 猪口 淳一

「婦人科領域がん」

がん研究会有明病院 婦人科 副部長 温泉川 真由

「食道癌」

国立がん研究センター東病院 消化管内科 医長 小島 隆嗣

#### ● 選択講義

「白血病、造血幹細胞移植」

北海道大学大学院医学研究院 内科系部門内科学分野血液内科学教室 教授 豊嶋 崇徳

「多発性骨髄腫」

よみうりランド慶友病院 副院長/埼玉医科大学 名誉教授 木崎 昌弘

「皮膚がんの薬物療法」

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 皮膚腫瘍科 山崎 直也

「頭頸部がんの薬物療法(甲状腺がん含む)」

国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 頭頸部内科長 田原 信

「放射線腫瘍学」

東京都健康長寿医療センター 放射線治療科 部長(診療科長) 角 美奈子

「がんゲノム医療」 慶應義塾大学医学部 教授/がんゲノム医療センター長 西原 広史

「小児がんに関する疫学、診断、薬物療法」

国立病院機構九州がんセンター小児・思春期腫瘍科 医長 古賀 友紀

「原発不明がん」

近畿大学医学部内科学教室 腫瘍内科部門 講師 谷崎 潤子

「脳腫瘍」

杏林大学医学部脳神経外科学 講師 小林 啓一

「骨軟部腫瘍」

がん研究会有明病院 総合腫瘍科 副医長 仲野 兼司

#### ◆参加者数 2,520 名

### 10. 第4回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー

開催日 2025年2月8日(土)

開催形式 オンライン開催(ライブ配信、グループワーク)

<プログラム>

「症例書き方のポイントについて」

がん専門薬剤師認定委員会委員長 池田 龍二(宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)

がん専門薬剤師認定優秀症例受賞者 西川 豊 (天理よろづ相談所病院 薬剤部)  
松金 良祐 (九州大学病院 薬剤部)

グループワーク

メディカルセミナー (共催 日本化薬株式会社)

「がん薬物療法における多職種協働による臨床薬剤業務のアウトカム評価」

座長：佐野 元彦 (星薬科大学 実務教育研究部門)

講師：池末 裕明 (名古屋大学医学部附属病院 薬剤部)

グループワーク

症例発表

◆参加者数 28 名

### 1 1. 第 11 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会

開催日 2025 年 3 月 2 日 (土)

開催形式 オンライン開催 (ライブ配信、グループワーク)

<プログラム>

症例検討 1 「固形腫瘍と発熱性好中球減少症」

講師：岸田 直樹 (一般社団法人 Sapporo Medical Academy 代表理事・医師)

東 加奈子 (東京医科大学病院 薬剤部)

メディカルセミナー (共催 ファイザー株式会社)

座長：組橋 由記 (がん専門薬剤師能力向上小委員会委員)

講演 I 「がん専門薬剤師の新しいキャリアへの挑戦

～Multidisciplinary treatment の実践～」

演者：後藤 愛実 (後藤オンコロジークリニック 副院長)

講演 II 「在宅支援診療所における腫瘍内科医の役割」

演者：後藤 昌弘 (後藤オンコロジークリニック 院長)

症例検討 2 「肺がん」

講師：田中 洋史 (新潟県立がんセンター新潟病院 院長)

吉野 真樹 (新潟県立新発田病院 薬剤部)

◆参加者数 24 名

### 1 2. 第 12 回がん専門薬剤師全体会議

開催日 2025 年 5 月 10 日 (土)

開催形式 ハイブリッド開催 (現地、オンライン：ライブ配信)

現地会場 KFC Hall & Rooms (東京両国)

セッション 1

「あなたの課題！全体会議で解決します！

ーがん薬物療法体制充実加算に関わるがん薬剤師外来ー」

座長：奥田 泰考、組橋 由記、兒玉 幸修

「がん薬剤師外来がなかった施設のがん薬物療法体制充実加算及び診察前面談の現状」

金沢大学附属病院 高林 真貴子

「薬剤師外来の現状と課題」

JA 長野厚生連 佐久医療センター 篠原 佳祐

「当院における薬剤師の外来業務の変遷」

東北労災病院 熊谷 史由

ランチョンセミナー（アステラス製薬株式会社 共催）

座長：佐野 元彦（星薬科大学）

「胃癌治療における新たな標的治療の実践

～ビロイを使いこなすための臨床運用とは～」

北海道がんセンター 佐川 保

「制吐薬適正使用ガイドライン速報版で採用された臨床試験結果の解説」

東京大学医科学研究所附属病院 朴 成和

セッション2

「AI とがん専門薬剤師業務」

座長：鮎原 秀明、原田 知彦、渡邊 裕之

シンポジスト：佐藤 弘康（小松市民病院）

鮎原 秀明（東京医科大学病院）

セッション3

「徹底議論でガイドラインを読み解く 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン改訂第3版」

座長：池末 裕明、大橋 養賢、高田 慎也、三宅 知宏

パネリスト：木村 俊一（自治医科大学附属さいたま医療センター）

田上 晋（東京慈恵会医科大学附属第三病院）

スイーツセミナー（中外製薬株式会社 共催）

座長：三宅 知宏（伊勢赤十字病院）

「薬剤師外来が ICI 治療に必要な理由(わけ)～3つの「良かった」を実現するために～」

富山大学附属病院総合がんセンター 石川 雄大

「irAE マネジメントを一步先へ：エビデンスを築き、実臨床につなげる」

九州大学病院 松金 良祐

◆参加者数 489 名（現地参加：126 名、オンライン参加：363 名）

### 1.3. 2025 年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義

配信期間 2025 年 7 月 1 日（火）～8 月 29 日（金）

開催形式 オンライン開催（オンデマンド配信）

<プログラム>

「感染症治療と TDM について」

熊本大学病院 薬剤部 尾田 一貴

「乳癌治療について～薬物療法を中心に～」

大阪大学大学院 医学系研究科 乳腺内分泌外科 特任助教 吉波 哲大

「医療倫理領域 研究倫理と患者の権利」

東京大学大学院人文社会研究科死生学・応用倫理センター 上廣講座

特任教授 会田 薫子

「医療統計の基礎知識」大阪公立大学 大学院 医学研究科・医学部医学科 医療統計学  
教授 新谷 歩

「小児てんかん」 国際医療福祉大学医学部小児科学 教授（代表） 塩浜 直

「関節リウマチ」 九州大学病院 別府病院 内科 助教 土井 吾郎

「不整脈」 山梨大学 医学部 循環器内科 講師 黒木 健志

「慢性腎臓病(CKD)の薬物療法」 九州大学病院 腎疾患治療部 准教授 中野 敏昭

「産科婦人科疾患」 筑波大学 医学医療系 産科婦人科学 准教授 小島 真奈

「小児気管支喘息の治療・管理ガイドライン」

群馬大学大学院 医学系研究科 小児科学分野 教授 滝沢 琢己

「成人家族性高コレステロール血症(FH)」

大阪医科薬科大学 循環器センター 特務教授 斯波 真理子

「アトピー性皮膚炎の病態・診断と治療」

九州大学大学院 医学研究院 皮膚科学分野 教授 中原 剛士

「ヘリコバクターピロリ感染」

慶應義塾大学 医学部内科学教室（消化器） 専任講師 森 英毅

◆参加者数 613 名

1 4. 2025 年度 薬物療法専門薬剤師の症例報告の書き方セミナー

開催日 2025 年 6 月 15 日（日）

開催形式 オンライン開催（ライブ配信、オンデマンド配信）

＜プログラム＞

薬物療法専門薬剤師認定の概要 関根 祐子（薬物療法専門薬剤師認定委員会 委員長）

症例の書き方解説

- 1) 心臓・血管系疾患
- 2) 腎・泌尿器疾患
- 3) 呼吸器疾患

◆参加者数 139 名

1 5. 第 1 回 薬物療法専門薬剤師全体会議

開催日 2025 年 11 月 22 日（土）

現地会場 神戸国際会議場 中小会議室 403

セッション 1

「グループディスカッション」

座長：細野智美、村田龍宣、土屋広行、渡邊享平

セッション 2

「全体討論」

座長：中村安孝、武隈 洋、山崎美保

◆参加者数 56 名

## 1 6. 関係団体への協力（本学会役員）

- 1) 一般社団法人日本薬系学会連合 奥田真弘：副会長
- 2) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 奥田真弘：理事
- 3) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録  
石井伊都子：統括責任者

## 〔2〕 組織運営の部

### 1. 2025-2026 年度 代議員の選出

第 17 回定時社員総会（2025 年 3 月 22 日開催）の終結後から第 19 回定時社員総会の終結時まで約 2 年間にわたり就任する 336 名の代議員を選出した。

### 2. 2026-2027 年度 役員を選任

2025 年 9 月、2026-2027 年度役員（理事 20 名、監事 3 名）

第 18 回定時社員総会（2026 年 3 月 20 日開催）において、2026-2027 年度役員（理事 20 名、監事 3 名）の選任を決議する。同総会の議を経て選任された役員の任期は、同総会の開催日から第 20 回定時社員総会（2028 年 3 月下旬頃の開催見込み）の終結時までとなる。

## 事業報告附属明細書

(2025年1月1日～2025年12月31日)

### 1. 役員 (2024年3月24日第16回定時社員総会終了後から就任)

#### 会頭

山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院

#### 副会頭

石澤 啓介 徳島大学病院

亀井 美和子 帝京平成大学

崔 吉道 金沢大学附属病院

#### 理事

池田 龍二 宮崎大学医学部附属病院

石井 伊都子 千葉大学医学部附属病院

伊藤 清美 武蔵野大学

大井 一弥 鈴鹿医療科学大学

大谷 壽一 慶應義塾大学

川名 三知代 帝京大学

佐藤 淳子 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

佐野 俊治 MSD株式会社

関根 祐子 千葉大学

田崎 嘉一 旭川医科大学病院

豊見 敦 南海老園豊見薬局

中村 敏明 大阪医科薬科大学

花輪 剛久 東京理科大学

松元 一明 慶應義塾大学

宮崎 長一郎 有限会社宮崎薬局

村木 優一 京都薬科大学

#### 監事

奥田 真弘 大阪大学医学部附属病院

富岡 佳久 東北大学大学院薬学研究科

望月 眞弓 元 慶應義塾大学

### 2. 事務局 (2025年12月31日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12-15 日本薬学会長井記念館7階

職員8名 (うち事務局長1名、契約職員1名)、派遣職員1名

以上、敬称略

<参考> 過去20年間の会員数の推移（2006年～2025年まで）

単位：名、社・団体

年度	正会員	学生会員	名誉会員	賛助会員	合計
2025	14,034	328	32	11	14,405
2024	13,961	296	32	13	14,302
2023	13,896	254	29	13	14,192
2022	13,781	224	27	13	14,045
2021	13,750	230	27	14	14,021
2020	13,369	196	28	14	13,607
2019	12,510	237	28	15	12,790
2018	12,408	226	26	16	12,676
2017	12,090	199	24	17	12,330
2016	11,577	200	21	17	11,815
2015	10,794	154	17	17	10,982
2014	10,084	215	15	20	10,334
2013	9,536	184	13	22	9,755
2012	9,557	153	11	26	9,747
2011	9,181	220	11	26	9,438
2010	8,586	211	10	26	8,833
2009	7,831	205	10	27	8,073
2008	7,271	225	10	27	7,533
2007	6,589	185	8	27	6,809
2006	5,896	168	6	20	6,090

注) 名誉会員は、物故者数を除く。